

2024年度 事業報告書

事業の状況

1. 事業の実施状況

軽種馬の資質の向上並びに軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図り、競馬の安定的な発展を通じ、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、以下の事業を積極的に実施した。

(1) 軽種馬の育成調教技術の改善・普及

軽種馬の育成調教技術の改善・普及を図るため、軽種馬生産・育成者等を対象に講演会・講習会を開催するとともに、技術普及誌（BTCニュース）を発行し、育成調教技術向上のための情報を提供することにより、生産地の基幹産業である軽種馬の生産・育成業の活性化を図り、地域社会の発展に寄与した。

- ① 育成技術講演会は生産者・育成者等の技術向上を図るため、6月に北海道地区にて「育成馬の栄養管理」および「競走馬の暑熱対策について」（(公社)競走馬育成協会主催）、9月に東北地区、10月に九州地区において「強い馬づくりのための放牧管理」（BTC主催）、11月に関東地区および関西地区にて「馬のバランスを起こす」（日本中央競馬会主催）をテーマに開催した。

また、BTC利用者を対象に、6月に「競走馬の暑熱対策について」、12月に「馬をおとなしくする方法および故障を防ぐ方法」をテーマに開催した。

全体で680名を超える参加者があり、活発な質疑応答がなされた。

- ② 育成調教技術者短期講習会は、「育成牧場に就労する者に対して、走路における騎乗方法」を中心とした内容に変更し、10月および12月に各1週間の講習会を実施し、計9名が受講した。
- ③ 技術普及誌「BTCニュース」は、制作費・送料の低減を図るため、135号（4月1日発行）から広告面も閲覧可能とした上でホームページからのBTCニュースの閲覧を推奨するとともに、136号（7月1日発行）から紙質の軽

量化を行い、馬に関する基礎知識、生産・育成に関する技術および情報等を中心に年4回発行・配付した。

- ④ JRA競馬場来賓室の利活用方針に基づきBTCニュース広告主に対し、11月9日に東京競馬場にて研修会を実施した。

(2) 軽種馬の育成調教技術者の養成

軽種馬の生産地等において、育成調教技術者として就労を希望する者に、1年間の研修を通じ、馬に関する体系的な技術・知識を習得させ、育成調教業務の技術的中核となる人材を養成し、就労の支援を行うことにより軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図った。

- ① 2023年4月入講の第41期生(27名)は、2024年4月12日に24名が研修を修了し、日高管内16名(浦河町8名、新ひだか町4名、新冠町2名、日高町2名)、胆振管内7名、道外1名が軽種馬の育成牧場へ就労した。
- ② 4月17日入講の育成調教技術者第42期生(27名)は4月に1名、5月に1名、7月に3名および8月に1名退所し、21名が受講している。
- ③ 民間インストラクターによるフィジカルトレーニングを計12回、ピラティストレーニングを計3回実施した。
- ④ 事業の情宣活動を拡充・改善するとともに、体験入学会を7月12日、7月19日(主催BOKUJOB)、8月1日(主催BOKUJOB:働こう体験会)、8月9日、8月16日(主催BOKUJOB)、9月23日(主催BOKUJOB)の計6回実施し、全国より131名が参加した。
- ⑤ 教官ではない職員による研修生との面談を6月11日~6月21日の間、9月3日~9月11日の間、12月9日~12月19日の間で計3回実施した。
- ⑥ BTC研修生OBからJRA調教師となった浅利英明氏による特別講義を、7月25日にBTCあかしあ寮教室にて実施した。
- ⑦ 8月9日に行われた道南ブロック教育長研修会(日高・胆振・渡島・桧山から参加者30名)の研修生の乗馬訓練見学时に立ち会い、日高・胆振の基幹産業である競走馬の生産・育成業を支える人材養成の意義等についての説明を行った。
- ⑧ 研修生向けの牧場説明会を9月25日~10月15日に実施し、30牧場が来

場した。

- ⑨ 小田卓朗氏（元オリンピック・スピードスケート日本代表選手、現浦河町職員）によるメンタルトレーニングに関する特別講義を10月2日にBTCあかしあ寮教室にて実施した。
- ⑩ 2025年4月入講予定の第43期生については、94名の応募があり、27名および補欠8名を選考した。
- ⑪ テレビ北海道によるBTC研修生に焦点をあてたドキュメンタリー「青春サラブレッド～北海道浦河町27人の若者たちの夢～」制作に係る取材対応を4月から9月まで計33日行い、以下の放送が行われた。
 - ・7月27日・8月3日競馬中継内でBTC研修の紹介（各3分）
 - ・11月4日10時05分～11時 テレビ東京系列全国6局ネット
- ⑫ 研修生の就職先の選択に資するため、11月25日から12月6日まで、各自1牧場のインターンシップを実施した。
- ⑬ 牧場就業推進事務局員として、下記のBOKUJOB事業へ参画した。
 - ・BOKUJOB働こう見学会（関東：3月9日、関西3月16日）
 - ・BOKUJOB2024メインフェア（東京競馬場：6月1日～2日）
 - ・牧場で働こう体験会（7月31日～8月1日）
 - ・BOKUJOB2024サポートデスク
 - 「小倉競馬場：7月13日～14日」
 - 「苫小牧市ノーザンホースパーク 8月7日～9日、9月27日～29日」
 - 「宮崎育成牧場：8月12日」
 - 「日本学校農業クラブ全国大会：10月23日～24日」
 - 「馬事公苑：10月31日～11月3日」
 - ・BOKUJOB2024関西フェア（京都競馬場：10月26日～27日）
 - ・BOKUJOB2024 Webフェア（11月9日～10日）
- ⑭ 教官職に興味がある大学馬術部員を対象に2024年1月に1名、3月に6名、計7名の大学生をインターンシップとして受け入れを実施した。

(3) 共同利用に供する軽種馬育成調教施設の運営・管理及び貸与

日高育成総合施設軽種馬育成調教場を不特定多数の軽種馬生産・育成者に共同利用のために提供し、その利用を通じ、軽種馬の資質の向上とともに経営

基盤の安定、強化を図り、生産地の活性化に寄与した。

- ① 特定資産取得・改良資金を利用して、調教場管理用作業機械、調教場各所内冷房設備の設置および調教場管理用車両の調達等を行った。
- ② 調教場利用者に対し、熱中症の「厳重警戒」が予測される日には公式LINEによる注意喚起、馬体冷却用として一部滞在厩舎の洗い場開放等を行った。
- ③ 調教場利用者・浦河地区生産者・BTC・JBBA研修生に対して、浦和競馬・平山真希調教師による特別講演会を6月27日に開催した。
- ④ ホッカイドウ競馬において以下の2レースに協賛した。

- ・ 8月7日 第10レース BTC特別
- ・ 10月3日 第12レース BTC賞第2回ネクストスター門別

⑤ 調教場の利用状況

イ) 調教責任者の申請承認

調教責任者 42名 (法人38名、個人4名)

調教要員 644名 (うち外国人 409名)

調教用馬 4,495頭 (うち利用馬 4,031頭)

※調教要員および調教用馬は年間申請数

ロ) 利用頭数

利用延頭数 166,817頭 (前年比 105.2%)

利用実頭数 4,031頭 (前年比 102.6%)

1日平均 534.7頭 (前年比 105.2%)

うち日帰り馬 497.9頭 (前年比 105.4%)

1日の最高利用頭数 786頭 (2024年12月10日)

※調教場開場以来の最高頭数 787頭 (2011年5月3日)

利用料収入 294,527,552円 (前年比 106.8%)

※内診療収入 56,516,152円 (前年比 109.9%)

⑥ 馬場および施設等の主な管理状況

イ) 屋内トラック馬場 (600m)

8月にクッション砂の取替工事を行ったほか、均一な砂厚調整に努めて管理した。

ロ) トラック砂馬場 (1600m)

コース中央部から外側にクッション砂を厚さ計3cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

ハ) トラック砂馬場 (800m)

全面を 9 cm の均一な砂厚調整に努め、良好な状態に管理した。

ニ) 直線砂馬場 (1200m・1600m)

両コースとも中央部にクッション砂を厚さ 3 cm 程度補充し、全面を 9 cm に管理した。

ホ) グラス馬場直線走路 (2000m)

本年も 2 コースに分けて管理を行い、蹄跡補修の目砂に黒土やピートモスを混合することで、芝の活着促進に努めた。

また、傷みが比較的激しい箇所には芝生張替えやカップ補修 (芝の部分的移植) を行い、良好な状態となるよう管理した。

ヘ) 坂路グラス馬場

本年は芝枯もなく良好な状態に管理した。

ト) 屋内坂路馬場 (1000m)

5 月から 11 月の期間中、定期的に少量の新材ウッドチップを補充 (合計 5 cm 厚程度) および攪拌を行い、良好な状態に管理した。

チ) 屋内直線馬場 (1000m)

5 月に馬場を 6 日間クローズし、既存のウッドチップを表層から 8 cm 程度スキ取り、篩分けした旧材と新材の混合材の補充を行い、ウッドチップ厚を 25 cm に調整した。また、5 月から 11 月の期間中、定期的に少量の新材ウッドチップの補充 (合計 5 cm 厚程度) および攪拌を行い、良好な状態に管理した。

リ) 教育エリア トラック砂馬場 (800m)

均一な砂厚調整に努め、全面を 9 cm に管理した。

⑦ 競走成績

中央競馬 706 勝 (前年度 798 勝)

うち 2 歳馬 105 勝 (前年度 130 勝)

地方競馬 3,659 勝 (前年度 3,490 勝)

中央競馬のグレード競走 G I : 2 勝、G II : 6 勝、G III : 12 勝

JG I : 1 勝、JG III : 1 勝

地方競馬で開催されたダート重賞競走

Jpn I : 2 勝、Jpn II : 6 勝、Jpn III : 5 勝

海外で開催されたグレード競走

G3 : 2 勝 (SAU、KOR)

- ⑧ 育成調教場利用馬における育成調教の指針や飼育管理に関する情報を、利用者に提供するための調査研究を実施した。
- イ) 利用馬に発生した熱中症の発症状況からリスクとなる環境因子を解析し、有効な熱中症予防方法について検討した。
 - ロ) 育成馬における消化管寄生虫の汚染状況と駆虫薬の有効性について調査を行った。
 - ハ) 第一指（趾）骨不完全骨折発症馬の臨床的特徴および予後について回顧的調査を行った。
 - ニ) 上腕骨疲労骨折発症馬の臨床的特徴および予後について回顧的調査を行った。
 - ホ) 大腿骨内側顆骨嚢胞を発症し螺子固定術を行った症例の臨床的特徴、リハビリテーションおよび予後について回顧的調査を行った。
 - ヘ) 蹄骨骨折を発症し螺子固定術を行った症例の臨床的な特徴および予後について回顧的調査を行った。
 - ト) 研究成果を以下のとおり公表した。
 - a) 学会等の発表
 - 「サラブレッド競走馬の第一指／趾骨の短い不完全矢状骨折 16 症例に関する回顧的調査」
(北海道獣医師会 令和 6 年度北海道地区学会)
(日本ウマ科学会 第 37 回学術集会)
 - 「上腕骨疲労骨折を認めたサラブレッド育成馬 14 症例」
(北海道獣医師会 令和 6 年度北海道地区学会)
(日本ウマ科学会 第 37 回学術集会)
 - 「大腿骨内側顆骨嚢胞に対する通顆螺子固定術後のリハビリテーションについて」
(ウマ科学会臨床委員会企画症例検討会)
 - b) 講習会等
 - 「馬の運動器疾患における実践的な X 線撮影法」
(令和 6 年度獣医技術向上研究会・帯広市)
 - 「レントゲン・エコーの基礎撮影と診断」
(令和 6 年度獣医技術向上研究会・大井競馬場小林牧場)
 - チ) 競走馬に携わる獣医師の診療技術および知識の向上を目的として、3 名延べ 16 日間の研修を行った。また、馬の獣医師を目指す獣医学生 14 名延べ 47 日間のインターンシップを受け入れた。

2. 評議員会等

2024年2月15日

第1回 理事会（定例）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2023年度事業報告及び決算の件
(2) 第1回評議員会（定時）の開催の件

報告事項 (1) 財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席理事の数4名、出席5名、監事出席2名

2024年3月18日

第1回 評議員会（定時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2023年度事業報告及び決算の件
(2) 規程の改正の件
(3) 役員を選任の件

報告事項 (1) 財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席6名、欠席3名、監事出席1名、理事出席6名

2024年5月28日

第2回 理事会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 規程の改正の件
(2) 利益相反取引の件

報告事項 (1) 日高育成総合施設軽種馬育成調教場運営管理要綱の改正
(2) 理事長及び専務理事の職務の執行状況

出席等 決議に必要な出席理事の数4名、出席6名、監事出席2名

2024年6月13日

第3回 理事会（臨時）

書面決議

決議事項 (1) 職員給与規程の改正の件

書面決議 決議に必要な理事の数6名、同意理事6名

2024年11月21日

第4回 理事会（定例）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

- 決議事項 (1) 2025年度財産の運用方針案及び運用計画案の件
(2) 2025年度事業計画案及び収支予算案の件
(3) 規程の改正の件
(4) 第2回評議員会の開催の件

- 報告事項 (1) 理事長及び専務理事の職務の執行状況
(2) 特定資産取得・改良資金の積立
(3) 組織規程中の業務部業務課の事務分掌の見直し

出席等 決議に必要な出席理事の数4名、出席5名、監事出席2名

2024年12月2日

第2回 評議員会（臨時）

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

- 決議事項 (1) 2025年度事業計画案及び収支予算案の件

出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席7名、欠席2名、
監事出席1名、理事出席5名

3. 事業報告に関する附属明細書

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。